

クラス	Q308	担当教員	吉原智恵子
テーマ	人と人との関係性の中で生きることについて考える		
著書・論文 研究課題等	<p>【著書】「自己心理学 社会心理学へのアプローチ」金子書房（2008）下斗米淳編（第7章 社会的文脈における自己概念の変容と動機づけ）、「現代社会を社会心理学で読む」ナカニシヤ出版（2009）永田良昭・飛田操編（第4章 認知的な矛盾の統合における他者との関係の意義）他</p> <p>【論文】「自他の相対化が討議の生産性に及ぼす効果」東海心理学研究（2019）共著、「社会的投射（Social Projection）と意見の参照妥当性との関連の検討」子ども発達学論集（2024）単著 他</p> <p>【研究課題】社会的影響過程における認知の変容</p>		
ゼミナール概要			
キーワード：自己と他者の関係性、個人と集団の関係性、社会的行動、社会的影響過程			
<p>目的・学習目標</p> <p>私たちは人と人との関係性の中で生きています。「人と十分に関わっているはずなのになぜ孤独感を感じるのだろうか？」「親は子にどのような影響を与えているのだろうか？」「子は親にどのような影響を与えているのだろうか？」など、身近な人間関係の中で感じる様々な問いがあると思います。人間関係にかかわる様々な現象について、文献を読むことや調査、実験等を通して理解を深めていくことを目指します。具体的な学習目標は、以下の3点です。</p> <p>①多様な人間関係の諸現象について理解を深める。②問題の設定から論文の執筆・発表までの一連の研究遂行過程を通して、心理学の研究方法に関する知識とスキルを習得する。③論文の書き方やディスカッション、プレゼンテーションなど、研究の過程で必要な知識やスキルを習得する。</p> <p>学習内容・方法・授業計画</p> <p>3年次前期は入門的テキストや論文を読み、基礎学習を行うことを主とします。課題を取り入れながら、1歩1歩進めて行きます。後期は各自の関心に基づいて先行研究を調べます。また卒業研究のためのキーワード選択やキーワードの定義調べ、リサーチ・クエスチョンの明確化などの課題を行い、発表やディスカッションを行います。そしてこれらを踏まえて卒業研究の計画を完成させるとともに、予備調査や第一研究のデータ収集の実施を目指します。4年次前期は各自の進捗に応じてさらに研究を進め、後期は結果の整理・考察のまとめ、中間報告などを行いながら卒論の完成を目指します。授業は報告・討論の形式を中心に行いますので、レジュメの作成方法やプレゼンテーション、ディスカッションのスキルを向上させることを意識して取り組んでもらいたいと思います。</p> <p>近年の卒業研究の主なキーワード</p> <p>SNS、自尊感情、自己肯定感、孤独感、承認欲求、親子関係、友人関係、流言、ストレス・コーピング、同調行動、攻撃性、対人距離、自己開示、自己愛、音楽、アルバイト経験 など</p> <p>担当教員からのメッセージ</p> <p>卒業研究は調査法、実験法、面接法、観察法等によるデータ収集に基づくことを原則としたいと思います。そのため「心理学統計法」、「心理データ処理演習」を修得していることや、3年次以降で「多変量解析」もしくは「質的データの解析」を履修していただくことを望みます。</p> <p>卒業後の将来を見据えながら主体的、能動的にゼミ活動に取り組むことは、自然にコミュニケーション力を磨くことにもなると思います。ゼミや卒業研究は机の上の勉強だけでなく、さまざまな作業や活動が伴います。いろいろな経験を積んで、成長していく姿を見せて欲しい、と願っています。楽しく、学びましょう！</p>			